総長顕彰受賞者一覧

令和6年度総長顕彰受賞者

【応募件数】 学修への取り組み：9件
正課外活動への取り組み：11件

「学修への取り組み」部門

氏　名	学部学科・学年	講　　評
そね　みさき 曽根 実咲	文学部 人文学科 ４年	明確な目標のもと地道な努力を積み重ね、優秀な成績をあげるとともに、チャンスを逃さない積極性を発揮したことは高く評価できる。フランスへの留学経験を通して、様々な壁にぶつかりつつも、語学力のみならず異文化理解の面でも大きく成長したことも大いに評価に値する。今後とも、「自分の限界を決めない」という信念を忘れず、グローバルな活躍を期待したい。
かきざわ　のぞみ 柿澤 のぞみ	教育学部 人間発達科学科 ４年	日本の学校教育制度への問題意識を入学当初から一貫して持ち続け、学修と同時に、学外の教育研究会への参加、教育現場でのフィールドワーク、米国小学校での教育実践など、様々な取り組みを通して、自らの問題意識と向き合い続けた意欲・姿勢は高く評価できる。今後とも、「開かれた学校づくり」を目指して、仲間とともに、教育現場の改革を目指していただきたい。
かみや　みさき 神谷 美咲	法学部 法律・政治学科 ４年	学業成績が極めて優秀であることはもちろん、他大学との合同ゼミでリーダーシップを発揮したこと、国際問題に強い関心を持ち、国際研修への参加や留学経験を通して、国際問題への理解を深め、積極的に国際性を高めてきたことは高く評価できる。これまでの貴重な経験によって得られた学際的な知識を活かし、国際的な舞台で大いに活躍することを期待したい。
しのはら　ゆうか 篠原 有香	経済学部 経営学科 ４年	高い学業成績をあげるとともに、自らの意思で会計プロフェッションを志し、そのキャリアパスを実現したことは、後輩学生のロールモデルとして高く評価できる。知的好奇心が旺盛で、意識的に幅広い学びを心掛けてきたことも大いに評価に値する。今後とも、在学中に身に着けた知識を活かし、会計プロフェッションとして一層成長していただきたい。
もりもと　ひらく 森元 拓	情報学部 自然情報学科 ４年	学修成績が優秀であるだけでなく、幅広い分野の学修を心掛けてきたこと、卒業研究においても難度の高いテーマに果敢に挑戦し、見事に解決の見通しが立つ段階までこぎつけたこと、これらはいずれも傑出した能力を示しており、高く評価できる。今後とも、学問全体に対する探究心と様々なことに挑戦する気持ちを持ち続け、更なる高みを目指していただきたい。
こうさか　しんのすけ 河阪 真之介	理学部 数理学科 ４年	学修成績が極めて優秀であることはもとより評価に値するが、とりわけ専門とする数学の分野では、抽象度の高い可換環論の輪読において大学院生を凌ぐ理解力を示し、大学院進学後早々に論文を書き上げるほどの実力が認められていることは高く評価できる。今後とも、数学に対する天賦の才を存分に発揮し、数学者として大成することを期待したい。
ふるみち　かずき 古道 万喜	医学部 医学科 ６年	学業と部活動を両立させつつ優秀な成績をあげたこと、粘り強い実験の結果、基礎医学セミナーで優秀賞を受賞したこと、自らの意思で生理学研究所や他教室における技術習得等の活動に取り組み、研鑽を重ねてきたことは高く評価できる。高い志はそのままに、持ち前の知的好奇心、実験遂行力、論理的思考力、洞察力を活かして、研究者として大いに活躍することを期待したい。
しもい　しゅんや 下井 舜也	工学部 電気電子情報工学科 ４年	学業成績が優秀なことはもちろん、光ファイバーネットワークの設計・制御に関して学びを深め、国内のみならず国際学会においても第一著者として研究発表を行った経験を持つこと、国内外の大学との共同研究に参画して成果を上げていることは高く評価できる。今後とも、研究に真摯に取り組み、当該分野の学術研究において将来を担う人材に成長することを期待したい。
たにうち　けいこ 谷内 桂子	農学部 資源生物科学科 ４年	学業成績が優秀なことはもちろん、研究を通じて社会に貢献したいという強い意志を持ち、農業・環境問題について学ぶため様々な活動に取り組んできたこと、また、研究室での真摯な研究の結果、新しい免疫活性化物質の発見に至ったことは高く評価できる。今後とも、研究に邁進するとともに、人と社会を助けることができる存在に成長することを期待したい。

「正課外活動への取り組み」部門

氏　名　・団体名	代表者	分　野	講　　評
たけだ　せいあ 竹田 聖彩	―	社会への貢献活動	2023年ミス日本「水の天使」として、水循環に関する広報活動に取り組んだこと自体評価に値するが、研究成果発表会で最優秀賞を受賞するなど、多忙な広報官としての活動と学業を見事に両立したことはとりわけ高く評価できる。広報官としての活動は、大学生活だけでは得られない貴重な経験であり、将来、医師として活躍する際にも、ぜひその経験を活かしていただきたい。
いしだ　なつこ 石田 奈津子	―	国際交流 社会への貢献活動	本学博物館での教育イベントの運営に加え、モンゴル、台湾、エチオピアと、世界の複数個所で教育ボランティアに取り組むなど、類まれな行動力は高く評価できる。また、知的好奇心も旺盛で、国内外の専門家にインタビューを重ねてきたことも評価に値する。今後とも、持ち前の行動力と知的好奇心を活かして、研究とともに、教育支援活動にも大いに取り組んでいただきたい。
きたしば　まさし 北芝 礼	―	正課外活動（部活動等）	幼少期から囲碁に取り組み、研鑽の結果、全日本学生囲碁大会に続いて、世界大学生囲碁選手権でも優勝という偉業を成し遂げたことはとりわけ高く評価できる。また、囲碁の勉強と医学科における学修を両立できていることも大いに評価に値する。囲碁を通じて培われた判断力、集中力、忍耐力は医師にも求められる力であり、こちらの力を活かして、医師としても大いに活躍していただきたい。
たにだ　こうき 谷田 幸貴	―	正課外活動（部活動等） 社会への貢献活動	専門的な研究に従事する傍ら、社会貢献への意思を強く持ち、TEDxUSHやハッカソン「HACK the NAGOYA」に参加し成果を上げたこと、また、団体としては、TEDxNagoyaUや学生アウトリーチ団体KMISCTで、イベントの実施やアウトリーチ活動に尽力したことは高く評価できる。今後とも、自己研鑽に励むとともに、団体での活動等を通して、社会貢献への思いを実現していただきたい。
RUMI Jepang （在日インドネシア人の家）	すずき　さり 鈴木　彩莉	社会への貢献活動	在日インドネシア人労働者の支援を目的として設立された数少ないＮＰＯ法人として、本学学生である代表者ともども、法的支援、情報発信、個別相談、政策提言など、さまざまな活動を積極的に展開してきたことは高く評価できる。今後とも、在日インドネシア人の方々が安定した生活基盤を築くための支援を継続するとともに、日本とインドネシアの懸け橋としての役割を担うことも期待したい。

令和5年度総長顕彰受賞者

【応募件数】 学修への取り組み：9件
正課外活動への取り組み：13件

「学修への取り組み」部門

氏　名	学部学科・学年	講　　評
中村（なかむら）　日向子（ひなこ）	文学部　人文学科　4年	高い累積GPAに加え，コロナ禍で留学が叶わなかったにもかかわらず，高度なフランス語能力を身に着けたことは，弛まず積み重ねてきた努力の賜物と言える。「日本の学生が選ぶゴンクール賞」での活躍や，日本人が苦手としがちな外国語で議論する能力が高いことも多いに評価に値する。社会人になってからも，学生時代の経験や身につけた能力を活かして，更なる飛躍を期待したい。
山田（やまだ）　怜生（れい）	教育学部　人間発達科学科　4年	学業はもちろん，コロナ禍により沈滞してしまった学生自治会の活動の再活性化にも率先して取り組み，自主ゼミの運営など，周囲を巻き込みながら主体的に行動する姿勢は，学生間の交流が希薄となりつつある現在，大いに評価に値する。大学院進学後も，専門分野を深めつつ，それにとどまらない多くのことを吸収するとともに，自ら積極的に発信する姿勢を持ち続けて欲しい。
渡会（わたらい）　りお	法学部　法律・政治学科　4年	学部４年間を通して，常に学年１位という評価を得ることは容易なことではなく，結果はもちろん，そこに至る学びの過程も高く評価できる。また，夫婦別姓のような社会的に難しい課題に対しても，文献や当事者の意見に耳を傾けることで思考をブラッシュアップできたことは大きな財産と言える。社会人になってからも，持てる力を十二分に発揮し，大いに活躍してほしい。
一柳（いちやなぎ）　典伽（のりか）	経済学部　経営学科　4年	学修において優秀な成績を修めるとともに，合格率10%台の試験を突破して在学中に公認会計士の資格を取得したことは高い評価に値する。その資格を活かした監査法人でのアルバイトや三度にわたる短期留学プログラムへの参加，経済学部同窓会・キタン会での活躍など，在学中の活動は多岐にわたる。社会人になっても，抜群の行動力を活かして，更なる飛躍を遂げてほしい。
杉森（すぎもり）　唯瑠未（いるみ）	情報学部　コンピューター科学科　4年	各学科各学年から選出される成績優秀者２名に２年連続で選出されたこと，専門資格を複数取得していることなど，いずれも弛まぬ努力と挑戦が実を結んだ結果であり，高く評価できる。卒業研究が認められ，早くも国際共同研究がスタートしていることも大変素晴らしい成果と言える。今後も，自身の夢の実現に向けて挑戦を続け，世界の舞台で活躍する人材に成長してほしい。
三河（みかわ）　咲太（しょうた）	理学部　化学科　4年	小学生時代から科学に魅せられ，その初心を忘れず，自身が抱いた疑問や社会の課題を化学の力で解決せんとする姿勢は称賛に値する。学修全般において極めて高い成績を修めていること，難易度の高い研究テーマに挑戦し，既に共同研究をスタートさせていることも，学びへの探求心や意欲が結実したものに他ならない。今後も一層学びを深め、日本のみならず世界で活躍する研究者となってほしい。
上岡（うえおか）　優介（ゆうすけ）	医学部　医学科　6年	入学時から目標に向かって着実に幅広い経験を積んできた自己研鑽への意欲の高さは群を抜いている。また，基礎医学セミナーにおいて，本人だけでなく所属を同じくする学生全員が最優秀賞に選出されたことは，本人の強いリーダーシップが，互いの切磋琢磨につながったことを示している。今後は，一層活動の場を広げ，循環器系の医師・研究者として大いに活躍してほしい。
鮎澤（あゆざわ）　颯（はやて）	工学部　機械・航空宇宙工学科　4年	学修において優秀な成績を修めただけでなく，野球部員としても良好な成績を残しており，限りある時間を有効に使った文武両道の活躍は高く評価できる。現在取り組んでいる研究では，学会発表や学術雑誌への投稿に加えて，特許も出願するなど，精力的な活動を進めており，大学院に進んでも，持ち前の集中力を活かして，夢の実現に邁進してほしい。
加藤（かとう）　優花（ゆか）	農学部　応用生命科学科　4年	優秀な学業成績は，周りの学生と共に成長することを志しつつ，自らの信念を強く持ち，地道に弛まぬ努力を重ねてきたことの成果であり，その模範的な勉学姿勢は周囲の学生にも影響を与えている。大学院での研鑽の過程でも，妥協せず学修や研究に取り組む姿勢を貫き，優秀な研究者に成長して，人類の健康の維持や促進に貢献する薬剤の開発で活躍してほしい。

「正課外活動への取り組み」部門

氏　名　・団体名	代表者	分　野	講　　評
木野内（きのうち）　南（みなみ）	―	社会への貢献活動	双極症などの精神疾患の治療においては，当事者が医学的に正しい知識を身に着け，主体的に治療に当たることが有効とされているが，それを可能にする心理教育を普及するため，自らNPO法人を立ち上げ，自治体等とも連携して集団心理教育を実践していることは高く評価できる。今後，心理教育の重要性の啓発に向け，一層活動の輪を広げていくことを期待したい。
小島（こじま）　未莉（みり）	―	国際交流 本学への貢献活動	国際交流を目的とする複数の学生団体で活動するとともに，自身も短期、長期の留学を経験することで得た明確な問題意識に基づき，留学生支援の充実や名大生の留学促進に向けた具体的な提案を，主体的な行動により実現してきたことは大いに評価できる。今後も，周囲を巻き込む持ち前の行動力を活かし，グローバル人材として国際的な舞台で活躍してほしい。
ウバイドゥラエフ　ダブロンベック UBAYDULLAEV Davronbek Abduvakhob ugli（アブドゥワホブ　オギリ）	―	本学への貢献活動 国際交流	留学生の支援を行う国際交流会館レジデント・アシスタントの活動に，留学生の立場で主体的に関わり，自らの経験や留学生としての視点を活かして，コロナ禍の期間も含め，その活動に大いに貢献したことは高く評価できる。また，同じウズベキスタンからの留学生を率いて行った様々な国際交流活動も評価に値する。今後は，持ち前の観察力や行動力を活かし，グローバルリーダーとして活躍してほしい。
名古屋大学 陸上競技部長距離パート	加藤（かとう）　太一（たいち）	正課外活動（部活動等） 正課外活動（スポーツ）	全日本大学駅伝に11年ぶりに出場し，東海学生駅伝で18年ぶりに優勝する快挙を成し遂げたことは，文句なく最大級の賛辞に値する。コロナ禍もあり，思い通りの活動ができないことがあっても，全員が目標に向かって一丸となり，練習を積み重ねてきたことが素晴らしい成果につながった。今後とも，個人の力を磨くとともに，チーム力も向上させ，更なる高みを目指して欲しい。
名古屋大学国際交流会館 レジデント・アシスタント	西本（にしもと）　宇志（たかし）	本学への貢献活動 国際交流活動	本学が進める国際化において，留学生の生活環境の整備や日本人学生との交流促進は重要な課題であり，本団体が30年にわたる活動を通じて国際化の推進に貢献してきたことは高く評価できる。また，コロナ禍においても，創意工夫によって留学生の生活を支え続けてきたことは特筆に値する。取組の成果を次の学年に引き継ぐことで，活動の更なる発展を期待したい。
Nagoya University Model United Nations	明松（かがり）　達也（たつや）	正課外活動（その他） 国際交流	本団体は，実際の国連を模した討論を行う名大模擬国連を三度にわたって開催してきた。この取組は，本学の学生のみならず，他大学の学生，高校生，海外からの参加者など，幅広く賛同を集めており，正課外の活動ではあるが，名古屋大学の国際交流の発展につながる取組として高く評価できる。今後は，模擬国連の企画・運営を通して学んだことを活かし，国際的な舞台で活躍してほしい。

令和4年度総長顕彰受賞者

【応募件数】 学修への取り組み：9件
正課外活動への取り組み：9件

「学修への取り組み」部門

氏　名	学部学科・学年	講　　評
おかざき　ゆうたろう 岡﨑　裕太郎	文学部　人文学科　4年	論理的かつ創造的な思考能力を持ち，旺盛な好奇心で着実に学修を積み重ねてきた。自己の探求心に向き合い，戦争倫理という重要にも関わらず厳密に検討されてこなかった分野の研究に果敢に取り組み，哲学的議論の理解・整理を進め，柔軟かつ粘り強く検討したことは高く評価できる。課外活動では居合道部主将としてリーダーシップを発揮してきた。他の学生の模範となる人物であり，社会での活躍が期待される。
いいだ　みゆ 飯田　みゆ	教育学部　人間発達科学科　4年	自己の経験から感じた学びへの興味について，その関心を深めるべく，様々な活動に参加して見識を広げるとともに，理論的な考察を深めている点が高く評価できる。卒業研究では，小学校の授業分析に取り組み，事実に基づき論理的に思考する探究力，忍耐力をもとに，高いモチベーションを保ちながら，独創的な知見を導き出した。卒業後は大学院へ進学し，更なる知識の深耕に努めることが期待される。
こんどう　ゆか 近藤　由佳	法学部　法律・政治学科　4年	本学の総合大学という特性を大いに生かし，既存の学問体系にとらわれず，学際的に多様な学問領域を学修し，極めて優秀な成績を修めた。本学の教育理念である「勇気ある知識人」を体現し，自己の学びだけでなく，ゼミ活動ではリーダーシップを発揮し，友人と支えあう姿勢も評価できる。卒業後は，社会教育施設・生涯教育施設としての博物館の発展に大いに貢献することが期待される。
たなべ　ひかり 田邊　ひかり	経済学部　経営学科　4年	合格率が10%台といわれる公認会計士資格を在学中に取得するとともに，大学の学修においても優秀な成績を修めたことは高く評価できる。また，資格を活かし，監査法人でのアルバイトや実務補修所での研修にも参加するなど，キャリア形成に向けて積極的に行動した。この努力と成果は，後輩学生にも刺激を与え，経済学部生のロールモデルになっている。卒業後は公認会計士として，更なる飛躍を期待する。
ささもと　そうふ 笹本　宗歩	情報学部　人間・社会情報学科　4年	１年時より活発に学修に取り組み，非常に優秀な成績を修めた。卒業研究では，計量的モデルの構築・実証にとどまらず，事例研究，定性的な課題にも取り組み，高く評価された。大学祭のウェブサイト制作や都内企業での長期インターンへの参加など正課外の活動にも熱心に取り組み，高い実践力により着実に成果を積み重ねた。卒業後は社会をリードする有能な人材に成長することを期待する。
つじ　けんじ 辻　健志	理学部　物理学科　4年	４年時に，これまで誰も成し遂げられなかった研究課題の劇的な改善を達成し，筆頭著者として論文を書き進めるとともに，日本物理学会で口頭発表を行ったことは高く評価できる。博士課程への進学を当初から目標とし，日々研究に意欲的に取り組む姿勢は，他の学生の模範ともなっている。卒業後は大学院に進学し，さらに研鑽を積んで，物理学の新たな地平を切り開く研究者となることが期待される。
すずき　りひと 鈴木　理史	医学部　医学科　6年	真摯かつ主体的に学業に取り組み，極めて優秀な成績を修めた。病原性細菌の研究で優れた成果をあげ，アメリカ微生物学会のトップジャーナルに筆頭著者の一人として論文が掲載されたことは高く評価できる。研究室の他のメンバーへの協力や助言，後輩の指導にも積極的に関わるとともに，医学部剣道部部長も務めるなど，優れた人間性を有している。卒業後は医師として，医学界をリードする人材となることが期待される。
ふどう　ともき 不動　友輝	工学部　環境土木・建築学科　4年	持続可能で災害に強い社会をつくるという志を持ち，強い探求心で幅広い知識を習得するとともに，社会への貢献を探求する姿勢は高く評価できる。教科書に書かれている理論が現場でどのように活かされているかを自身の目で見て考えることを重視し，防災サークルでの防災イベント運営にも主体的に携わった。卒業後は大学院へ進学後，国家公務員総合職として，社会基盤整備に携わる優れた技術者になることを期待する。

いけざき　みく 池崎　未来	農学部　資源生物科学科　4年	「表面的な知識の記憶に留まらず，深い理解によって高い専門性を身につける」という目標通り，理解できなかった課題にこそ時間をかけて理解を深めていくという学びへの真摯な姿勢が卓越した学修成果につながったことは高く評価できる。卒業論文では，脱炭素社会へ貢献できる研究を志し，着実に成果を積み重ねてきた。卒業後は大学院に進学し，将来有望な研究者として更なる成長を期待する。

「正課外活動への取り組み」部門

氏　名　・団体名	代表者	分　野	講　　評
ほんごう　たじゅ 本郷　汰樹	―	正課外活動（スポーツ）	「今」と真摯に向き合うことで，怪我という壁をも乗り越え、昨年秋には東海学生および愛知県新記録をいう偉業を成し遂げたことは大変素晴らしい。2024年パリ五輪，2025年世界選手権，そして名古屋で開催される2026年アジア大会と各大会を見据えて日々鍛錬を積み重ねており，更なる飛躍とグローバルな活躍が大きく期待されている陸上選手のひとりであることは確かであり，本学も一丸となり応援している。
いわくら　あつむ 岩倉　侑	―	社会への貢献活動	東日本大震災での被災経験により，防災行政に興味をもち，本学法学部で学びを深めるかたわら，被災地以外では希少な語り部として，震災の伝承活動（語り部講演）に尽力した。様々な団体と関わりつつ，メディアも活用して，辛い被災経験を若者目線でリアルに伝えることで，減災につながる活動を続けていることは誰しもができることではない大変貴重な活動である。様々な団体や人々と交流しながら今後も活動を継続していただきたい。
名古屋大学舞踏研究会	すずき　はやと 鈴木　颯斗 くりた　なつき 栗田　菜月	正課外活動（部活動等） 正課外活動（スポーツ）	東日本大震災での被災経験により，防災行政に興味をもち，本学法学部で学びを深めるかたわら，被災地以外では希少な語り部として，震災の伝承活動（語り部講演）に尽力した。様々な団体と関わりつつ，メディアも活用して，辛い被災経験を若者目線でリアルに伝えることで，減災につながる活動を続けていることは誰しもができることではない大変貴重な活動である。様々な団体や人々と交流しながら今後も活動を継続していただきたい。
アレン　キム ALLEN Kim	―	課外活動 社会貢献 国際交流・課外研究活動 大学への貢献	ご出身地のパプアニューギニア離島コミュニティの開発課題に対する問題意識から，水と衛生，教育，青少年育成に関わる問題解決に積極的に取り組むとともに，世界各地で開催された数多くの国際会議に参加するなど，学生の枠を超えた活発な活動を行ってきた。その姿勢は「勇気ある知識人」を体現するものであり，高く評価できる。今後も母国の開発課題に取り組むとともに，国際的な舞台でリーダーシップを発揮し，活躍することが期待される。

令和3年度総長顕彰受賞者

【応募件数】 学修への取り組み：８件
正課外活動への取り組み：10件

「学修への取り組み」部門

氏　名	学部学科・学年	講　　評
たけなか　しおり 竹中　志織	文学部　人文学科　４年	好奇心と向上心に満ち、計画的に学修に取り組み、非常に優秀な成績を修めた。学修成果のみならず、その過程における努力も高く評価できる。語学の習得にも力を注ぎ、上海への留学や中国語スピーチコンテストで優秀な結果を残した。課外活動においても主体的に責任感を持ち行動し、他の学生の模範となる人物である。今後は行政職員として、信念と挑戦を忘れず、活躍することが期待される。
ごとう　りか 後藤　梨華	教育学部　人間発達科学科　４年	公認心理師及び臨床心理士の資格取得を目指し、積極的に学修に取り組んだ。机上の学修だけでなく、アルバイトやボランティア活動を通してより実践的に学びを深めることにも尽力した。悩みながらもより良い解決方法を模索し見出す能力、自身の関心を基に活動の幅を広げていく力は、他の学生へ大きな影響を与え模範となった。今後は大学院へ進学し、研究をさらに推進することが期待される。
とみた　りょうすけ 冨田　遼介	経済学部　経営学科　４年	高い学修意欲を持ち、最上位の成績を修めつづけた。意欲的に学外ビジネスコンテストへ挑戦し、大学でインプットした知識を社会においてアウトプットする活動を通じて、実践的な応用力を身につけた。サークル活動ではチームの中心として組織運営に取り組み、模索しながらも自身のリーダーシップを見出し、実践した。「勇気ある知識人」として他の学生の模範となる人物である。
よつや　はるか 四谷　悠	情報学部　自然情報学科　４年	優秀な成績もさることながら、学修への意欲と知的好奇心に基づき、事を為すため躊躇なく新たな場に飛び込み、主体的に活動する点が大いに評価できる。取り組むべき課題の解決や技術の修得に秀でており、セミナーや実習において真摯に取り組む姿勢は他の学生の模範となった。今後は大学院へ進学し、将来の課題解決を先導する人材として成長することが期待される。
はがい　まさや 羽飼　雅也	理学部　化学科　４年	学部２年生時に量子化学研究室の門を自ら叩き、大学院レベルの研究に取り組んだ。また、SNSを活用し、量子コンピュータの企業へコンタクトをとり、先端的研究の動向を調べるなど、自主的、積極的に学修に取り組み、非常に優秀な成績を修めた。新しい学問を柔軟に体現できる力が群を抜いており、服部国際奨学財団奨学生に採用され、名実共にその成果が認められている。大学院へ進学し、今後の社会のあり方を変えるような研究成果を生み出すことが期待される。
いわた　たくや 岩田　拓也	医学部　医学科　６年	古役研究に打ち込み、担当教員と積極的に議論を交わし考察を深め、基礎医学セミナーにて最優秀賞、実習ノートはベストノート賞を受賞した。他の学生へも良い影響を与え、後輩の学修に役立つ功績を残した。医療系サークルでは、他大学の学生も参加できるワークショップを主催し、地域ボランティアとして救急医療の普及にも尽力した。医学部剣道部では部長を務め、まさに文武両道に励んだ。今後の医学界をリードする人材となることが期待される。
たなか　あきよし 田中　彬義	工学部　電気電子情報工学科　４年	自身の研究に自発的に取り組み、研究分野に関する国際会議において３件の発表を筆頭著者として行う等顕著な成果を得た。実現不可能と思われる事にも自ら解決策を模索し、挑戦するという卓越した問題解決能力を持つ。ケンブリッジ大学での短期学生交流プログラムに選抜され、語学力の向上にも努めた。大学院に進学し、半導体集積回路設計分野を牽引する研究をさらに進めることが期待される。
わたなべ　あやね 渡邉　彩音	農学部　生物環境学科　４年	専門以外の分野についても、真摯に学修に取り組み、大変優秀な成績を修めた。卒業研究に関する屋久島、種子島での長期野外実習では自主的に地元住民や研究者と交流し、人的なネットワークを構築することにより、調査を完遂した。学修への真剣な取り組みと、たゆまぬ努力で身につけた学力、研究遂行能力に秀でている。大学院に進学し、森林・環境資源科学の分野において将来有望な研究者として成長することが期待される。

「正課外活動への取り組み」部門

氏　名　・団体名	代表者	分　野	講　　評
さわだ　そうご 沢田　蒼梧	―	正課外活動（その他）	クラシック音楽界最高峰の「ショパン国際ピアノコンクール」本大会へ出場し、二次審査まで進出した。医学生としての出場は史上初の快挙であり、ピアニストとして大きな讃頌と注目を集めている。医学と音楽を高いレベルで学び続けるチャレンジ精神は本学の教育目標である「勇気ある知識人」に相応しい。将来は医学と音楽の双方で人々に影響を与える活躍が期待される。
名古屋大学学生支援本部 学生相談サポーター	まきの　ゆうや 牧野　裕也 教育発達科学研究科 博士前期課程　２年	社会への貢献活動 本学への貢献活動	新型コロナウイルス感染症が拡大する中、状況に合わせて柔軟に活動を展開し、活動内容を積極的に発信することで、本学学生の様々な悩みに寄り添いサポートした。活動が社会全体への貢献であるという考え方は評価に値すると共に、本学としても活動に感謝したい。利用者増加を目指しSNSを用いた相談窓口の整備に取り組む等、時代のニーズに合わせた活動をさらに推進することを期待する。
あんどう　いくみ 安藤　郁美	国際言語文化研究科 博士後期課程　3年	本学への貢献活動 国際交流	周囲を巻き込んだ高い推進力ときめ細やかなサポート力を兼ね備え、日々留学生に寄り添う活動を精力的に行った。新型コロナウイルス感染症拡大という未曽有の事態においても、周囲と協力し、忍耐強く課題解決をし、頼もしい活躍をされた。ハンドブック企画・執筆にも取り組む等、先を見据えた活動も評価できる。今後は、地域日本語教育コーディネーターとして、社会での更なる活躍が期待される。
KMI Science Communication Team	ふじわら　もとこ 藤原　素子 理学研究科 博士後期課程　3年	社会への貢献活動 本学への貢献活動	「科学をより身近なものへ」「アウトリーチ発信が自己育成となる」という活動意義に基づき、付箋紙を用いたWebコンテンツ・連動グッズ作成などユニークな活動を実施した。素粒子・宇宙物理研究の面白さを広める企画・運営を大学院生が中心となって行うことは、研究室の垣根を超えた交流に繋がり、大学院生の視野が広がるという教育効果も生み出している。素粒子・宇宙物理研究の裾野を広げ、研究者を育成する上で大変有意義な活動であり、今後の発展を期待する。

令和2年度総長顕彰受賞者

【応募件数】 学修への取り組み：８件
正課外活動への取り組み：6件

「学修への取り組み」部門

氏　名	学部学科・学年	講　　評
のざわ　はな 野沢　華	文学部　人文学科　4年	学修において「自身の興味、知的好奇心に忠実に、貪欲に」という主体的積極的な姿勢で取り組んだ。特に語学の修得に力を入れ、優秀な成績を修めた。自身の興味の持てるものを積極的に学習し、疑問に思ったことは妥協せず突き詰めて学ぶ姿勢は周囲の模範となった。今後は社会人としてさらなる活躍が期待される。
あさい　ゆきあ 浅井　裕妃有	教育学部　人間発達科学科　4年	学業成績が非常に優秀であり、自分自身の興味関心を大切にし、ボランティア活動や外国語の勉強等様々なことに挑戦した。机上の学習だけでなく、より実践的に学びたいと考え、学習支援活動にも積極的に取り組んだ。卒業研究では政策動向を理解した上で、実践的な視点から今後の課題を提起し、優れた内容の論文を書き上げた。今後は国家公務員として社会に貢献することが期待される。
まき　あやの 牧　綾乃	経済学部　経営学科　4年	大学在学中に難関とされる公認会計士試験の勉強に取り組み、３年次において優秀な成績で合格した。また専門科目の勉強以外に、全学教養科目などを積極的に受講し、アメリカ短期留学も経験した。現在は国際的に展開する監査法人で実務経験を積んでおり、今後は経験を生かしてさらなる活躍が期待される。
ふき　つむぎ 婦木　紡	情報学部　コンピュータ科学科　4年	高い学修意欲を持ち、自身の学科だけでなく、他学科の講義も積極的に受講し、極めて優秀な成績を取得した。学部１、２年時には成績優秀者として表彰された。またプログラミングに精力的に取り組み、国内外の競技プログラミング大会に参加し、さらなる能力向上に努めた。卒業後は専門知識と培った経験を活かし、社会に貢献することが期待される。
いしかわ　ともひろ 石川　智浩	理学部　物理学科　4年	研究活動において、自らの強い意志で深く学習していくことに努力を惜しまず、仲間たちと積極的に議論を行い、極めて優秀な成績を修めた。特に専門分野である重力波に関する自分の理解をまとめたオリジナルノートの作成に力を入れ、留学生への伝達授業を行うなど周囲の模範となった。今後は大学院での更なる活躍が期待される。
ふじえだ　くみこ 藤枝　久美子	医学部　医学科　6年	さまざまな経験を経て、医学・生命科学への興味を深め、明確な目的意識をもって名古屋大学医学部に進学した。授業や研究活動において、多くの課題に直面したが、積極的に取り組み、学修と研究の両面で顕著な成果が得られた。また、研究成果を学会や専門誌に発表し、慢性腎臓病の新たな予防法開発に貢献した。今後は医師として大いに活躍することが期待される。

あおき　みずほ 青木　瑞穂	工学部　機械航空宇宙工学科　４年	大学では特に知識の幅を広げることと体系的な知識を得ることに力を入れ、自ら学びのチャンスを増やし、幅広く深く知識を修得した。また、情報学の体系的な知識を得るため、プログラミングを学習し、システム開発まで行い、情報系国家資格も取得した。今後は大学院に進学し、自動運転制御など、社会のあり方を変えるような研究成果を生み出すことが期待される。
おおつか　まよ 大塚　茉代	農学部　応用生命科学科　４年	大学生活では学業に最も力を入れ、興味のある科目を全て受講し、たいへん優秀な成績を修めた。より幅広い分野に興味を持ち、より多くのことを学びたいとの考えから、計画的、積極的に取り組みんだ。地道に努力を重ねる姿勢と学修意欲は他の学生の模範となった。今後は大学院に進学し、創薬分野での研究をさらに推進することが期待される。

「正課外活動への取り組み」部門

氏　名　・団体名	代表者	分　野	講　　評
なかがわ　はるこ 中川　晴子	―	正課外活動 （部活動等） 正課外研究活動	名古屋大学体育会陸上競技部に所属し、競歩を専門として競技に取り組んだ。大学３年の春に全日本大会で８位入賞、冬には日本選手権で１３位の好記録を出した。また将来は基礎研究医を目指し、実験手技や研究方法の取得のため、さまざまな研究室で学んでいる。将来は競技と研究の両方で更なる活躍が期待される。
わかすぎ　みほ 若杉　美穂	―	国際交流 本学への貢献活動	周囲を巻き込んだ実行力とチャレンジ精神を発揮しながら、様々な角度から国際交流活動に取り組んだ。自身の留学経験を発信する活動や留学生支援国際交流活動なども積極的に参加し、名古屋大学の目指すグローバルな大学の推進に貢献した。今後は名古屋大学での経験を活かし、社会でのいっそうの活躍が期待される。

令和元年度総長顕彰受賞者

【応募件数】 学修への取り組み：８件
正課外活動への取り組み：６件

「学修への取り組み」部門

氏　名	学部学科・学年	講　　評
くりた　まほ 栗田　真帆	教育学部　人間発達科学科　４年	研究者を目指して、研究活動及び自身の専門領域に関連する勉強に力を入れた。特に卒業研究では高い能力を発揮し、全編英語により執筆され、教育学部の卒業論文優秀発表賞を授与された。また課外の学修や研究活動にも積極的に取り組み、研鑽を積んできている。今後は益々の活躍が期待される。
もり　ひかる 森　日香留	法学部　法律・政治学科　４年	大学の４年間で法学部の授業に限らず、他学部の開放科目やG30の英語授業等にも積極的に取り組み、優秀な成績を修めた。また国際的な活動にも積極的に参加し、留学制度を最大限生かし、ベトナム、ラオス、韓国の3カ国に留学した。今後は幅広い視野を活かして、社会に貢献することが期待される。
せきね　まな 関根　愛	経済学部　経営学科　４年	大学の講義に積極的に参加しながら、１年次秋から公認会計士の勉強に取り組み、努力を重ねた結果、公認会計士試験に３年次に合格した。また学修への取り組みだけでなく、海外でのインターンシップや研修にも参加し、国際的な経験を積んできた。今後は優秀な会計士として、益々の活躍が期待される。
ひついし　ひろか 櫃石　祥歌	情報文化学部　社会システム情報学科 ４年	目標をしっかり立てることと基礎的知識を勉強し続けることを意識し、学修に真剣に取り込んだ。卒業研究の「介護予防に向けたスマートスピーカーの活用と実証」においては、自治体や企業と連携を進め、大きな成果をあげた。課外活動においても、広報分野のリーダーをつとめ、周囲からの人望も厚く、将来の活躍が大いに期待される。
さいとう　だいき 斎藤　大生	理学部　物理学科　４年	物理学分野の研究に対する考察が深く、研究室では常に議論の中心となる、群を抜いて優秀な学生である。また学部２年次から学生教育委員として教育委員会に参加し、学生の意見の集約や、教育環境の改善など、積極的に関わってきた。学業優秀なだけではなく、人格的にも優れた学生であり、将来有望な研究者になることが期待される。
よしかわ　まりな 吉川　麻里奈	医学部　医学科　６年	知的好奇心が旺盛で学修意欲にあふれ、積極的に研究活動に参加した。海外留学へも意欲的に参加し、台湾とドイツで臨床実習に取り組んだ。また、課外活動においても、医学部混声合唱団の指揮者として様々な活動に参加された。このような素晴らしい姿勢は他の学生にも良い影響を与え、模範となった。今後は医師として、大いに活躍するとともに、優れた研究者となることが期待される。

いとう　しろう 伊藤　志朗	工学部　機械航空宇宙工学科　３年	将来は航空宇宙分野で活躍し、人類の宇宙開発に貢献したいという強い思いを持ち、工学部３年生ながら、大学院入試を優秀な成績で突破し、飛び級で大学院に進学する。また、高い国際性を身に付けるために、英語学習や国際交流に積極的に取り組み、進学後は海外留学を予定している。今後は高度な専門知識、国際性を活かして、人類の宇宙開発に貢献することが期待される。
かい　みずき 甲斐　瑞季	農学部　資源生物科学科　４年	学修に真剣に取り組み、極めて優秀な成績を修めるとともに、研究室ではリーダーシップを発揮し、トップレベルの研究に取り組んだ。専門分野以外の授業も積極的に受け、幅広い知識を習得した。また英語が堪能であり、３年次にケンブリッジ大学へ留学しイギリスと日本の国際交流に貢献するとともに、名大生の海外留学推進する取り組みにも尽力した。今後は国際性と専門性を更に深め、研究に邁進することが期待される。

「正課外活動への取り組み」部門

氏　名　・団体名	代表者	分　野	講　　評
名古屋大学環境サークル Song of Earth	おおつき　しゅんすけ 大槻　峻介	正課外活動 （部活動等） 本学への貢献活動	「学生にもできる環境活動を実践する」ことをモットーに、名大から世界までの様々なスケールで、環境問題を学生の視点から考え、自分たちにできることを話し合い、挑戦してきた。構内美化活動やエコ工作、環境に関する勉強会の実施など、様々な活動に取り組んできた。今後はより多くの学生の学内外に対する環境問題への意識向上を目指し、幅広く活動を推進することが期待される。
留学のとびら	ますだ　ひろこ 増田　浩子	本学への貢献活動及び 国際交流	名古屋大学の留学プログラム利用の促進及び支援を目的に、留学を志す学生の個別相談やイベント運営など様々な活動を実施した。これらの活動を通して、名古屋大学生の留学認知度向上及び留学者の増加、学生同士のコミュニティ形成など、グローバル化を目指す名古屋大学へ大きく貢献している。今後も活動を継続し、留学をはじめとした学生生活への貢献が期待される。
くちだ　たくと 口田　琢仁	―	正課外活動 （部活動等） 社会への貢献活動	名古屋大学アイスホッケー部に所属し、2019年1月～12月まで主将を務め、中部リーグ優勝、インカレ出場に貢献した。個人としても第28回中部学生アイスホッケー選手権大会にて最多得点者賞・最優秀選手賞など多くの表彰を受けた。また選手としてだけではなく、指導者として愛知県の小中学生の育成にも取り組んでいる。今後はアイスホッケーを盛り上げるための活動を継続し、よりいっそうの活躍が期待される。

平成30年度総長顕彰受賞者

【応募件数】 学修への取り組み：９件
正課外活動への取り組み：１３件

「学修への取り組み」部門

氏　名	学部学科・学年	講　　評
ぬきな　ことね 貫名　琴音	文学部　人文学科　４年	大学の様々な授業に積極的かつ主体的に参加し，とくに外国語の勉強に力を入れた。英語やフランス語を駆使して多くの文献や史料を渉猟し，多大な労力と時間を傾注して，16世紀フランス史に関する素晴らしい内容の卒業論文を書き上げた。真摯で粘り強い勉学・研究に対する姿勢により，文学部4年生全体のなかでGPAが第1位という傑出した学業成績を残し，他の学生や後輩にとって見習うべきロールモデルとなっている。今後も，社会人として，さらなる活躍が期待される。
しまぶくろ　かいり 島袋　海理	教育学部　人間発達科学科　４年	ジェンダーに関する卒業論文では，フィールドワークに積極的に取り組み，審査で極めて高く評価された。授業の成績が大変良好であるだけでなく，様々な活動にも取り組んだ。インドネシアで高校生のジェンダー意識を調査し，その成果を英語で発表した。また，大学院進学を見据え，読書会等の自主的な勉強会を主催して研究の基礎文献を読解し，学会など様々な機会に参加し，情報収集やネットワーク構築に努めてきた。今後も意欲的な姿勢で研究に取り組むことが期待される。
オチルホヤグ　ソドチメグ OCHIRKHUYAG SODCHIMEG	法学部　法律・政治学科　４年	優秀な学業成績を達成しただけでなく，積極的で真摯な学修姿勢でも際立ち，他の学生の手本となる存在であった。卒業論文では，モンゴル赤十字社でのインターンシップの経験から，モンゴルにおけるDV被害に関する研究に熱心に取り組み，優れた成果を挙げた。何事にも真摯に取り組み，努力を惜しまない姿勢により，日本語能力も極めて高く，文献の読解力や論理的思考力は，多くの日本人学生よりも優れている，さらに成長し，国際社会に貢献する人材となることが期待される。
まきの　えみ 牧野　恵美	経済学部　経営学科　４年	学業成績が非常に優秀であり，論文コンテストやグローバル人材育成プログラムでも優秀な成績を修めた。学部生で勉強グループを立ち上げるなど，その自主的な学習態度や知的好奇心，そして強いリーダーシップは，次世代のリーダーとしての素質を感じさせる。ゼミ活動の一環で，ビジネスプランコンテストに挑戦し，ゼミのリーダーとしてマーケティング事業を立案し，チームの団結力を高めた。今後は，社会人として，さらに活躍することが期待される。
やまだ　あかり 山田　明里	情報文化学部　自然情報学科　４年	極めて優秀な学業成績を収め，自然情報学科では毎年成績優秀者の表彰を受けており、意欲の高さと勉学に対する一貫した真摯な姿勢は，他の学生の模範となっている。卒業研究では，プログラミング言語を自主学習するなどの努力により優れた成果を挙げ，企業との共同研究も進め，共同で特許出願を予定しており，実用面において高く評価されているだけでなく，今後は国際学会等での発表も予定している。大学院進学後も研究をさらに発展させ，国内外での活躍が期待される。
なかじま　ひろあき 中島　弘瑛	理学部　化学科　４年	常に知的好奇心を純粋に追求し，専門科目以外も幅広く履修し優秀な成績を収めた。新しい金属錯体分子の合成と物性探索に関する卒業研究では，効率的な実験方法で研究を前進させ，その成果は多くの研究者からも関心を寄せられている。セミナーにも積極的に参加し，研究室内のアカデミックな雰囲気の醸成を先導した。また，アカペラサークルにも所属し，熱心に活動に取り組んだ。大学院進学後は，海外の大学での共同研究も予定しており，研究者としての活躍が大いに期待される。

ないとう　ゆう 内藤　裕	医学部　医学科　６年	優秀な学業成績を収めているが、とくに基礎医学セミナーにおいては，教員と一体となってともにゴールを目指す，主体的かつ創造性に富む「共同研究者」として熱心に研究に取り組んだ。その研究態度は，一方向的な指導の対象を超えており，まさに他の学生の模範となっている。国内外の学会・研究会等で優れた研究発表を行い，賞も獲得している。また，後輩に対しても親身な助言・指導を行い，人望も厚い。豊かな将来性を感じさせ、今後の活躍が大いに期待される。
にしお　ゆうや 西尾　祐哉	工学部　電気電子情報工学科　４年	学部の授業でほぼすべての科目でＳ評価という極めて優秀な学業成績を収め，研究インターンシップへの参加，海外との共同研究，自身の研究成果による起業など，意欲的に活躍している。難度の高い研究課題にも積極的に取り組み，その姿勢は他の学生にも波及し，研究室全体が活発化した。すでに複数の論文の発表，特許出願を行っており，優れた研究成果を挙げている。英語での質疑応答も申し分なく，国際会議での発表で受賞している。今後も，さらなる研究の発展が期待される。
こじま　なつみ 小島　なつみ	農学部　応用生命科学科　４年	卒業要件にかかるすべての科目で，ＳとＡ評価が占める割合が学部学生で最も高く，優秀な学業成績を収め，教員の記憶に残る模範的な受講姿勢であった。卒業研究では，打てば響くような明快な応答で指導教員と議論し，自発的に集中して効率的に実験を進め，短期間で優れた成果を挙げ，その成果を学会で発表することが決まっている。論理的思考力，課題解決能力，実行力を兼ね備え，また英語にも堪能で，将来有望な研究者として成長することが大いに期待される。

「正課外活動への取り組み」部門

氏　名　・団体名	代表者	分　野	講　　評
いわた　しょうこ 岩田　祥子	―	正課外活動（スポーツ）	学部学生であった時からカヌー競技を始め，大学院進学後もカヌー選手として競技生活を続ける傍ら，カヌー教室や技術指導の講師として小中学生の指導にも当たっている。平成30年10月に開催された第73回国体（福井県勝山市）においては，愛知県代表として成年女子カヌースラロームC-1に出場して入賞を果たし，愛知県のカヌー競技総合優勝（天皇杯）獲得に貢献し，その活躍は本学の名誉を高めた。今後は社会人としてさらに研鑽を重ね，いっそうの活躍を期待する。
名古屋大学電情組	かやのけいすけ 茅野敬介	正課外活動（その他） 社会への貢献活動	電子工作を通じて，人々の生活に資する新たな価値を創出することを目的とし，人々に寄り添った電子機器及び情報通信システムの開発を行ってきた。その技術の創造性及び有用性が高く評価され，Raspberry Pi（ラズベリーパイ）コンテストでEnergy Eye賞を受賞した。その後も，日経トレンドエキスポでの展示，企業による広報，またメディアによる報道など，大きな反響を呼び，本学の名誉を高めた。今後は，社会人として，社会的課題の解決によるいっそうの活躍を期待する。
留学生･国際交流支援学生 団体 ヘルプデスク	しまだこうたろう 嶋田耕太郎	正課外活動（その他） 国際交流、本学への貢献活動	来日直後の留学生を対象として，国際寮での受け入れ補助，大学での生活補助，日本人学生との異文化交流を促進するために様々な企画を実施した。メンバーは，留学生と日本人学生との親密な交流を育み，大学の一部業務も支援し，お互いを刺激し合う国際コミュニティーの形成に大きく貢献している。平成17年の発足より，学生が自主的に，また継続的に活動を行って来ており，その成果は，国際教育交流センター長顕彰でも毎年表彰されている。今後も，いっそうの活躍を期待する。
くにえだ　まい 國枝　真衣	―	正課外活動（その他）	「変化する地球環境と人類の未来」をテーマとする，第48回ホノルル市長杯全日本青少年英語弁論大会大学生の部において，東海北陸ブロック代表として，絶滅の危機にあるミツバチを題材に優れたスピーチを行い，最優秀賞を受賞して本学の名誉を高めた。ハワイ大学への短期留学，ホノルル市長表敬訪問といった貴重な体験を経て，現地の文化を学ぶとともに，英語力の向上に邁進した。今後は，さらに研鑽を重ね，その英語力を活用して国内外でのいっそうの活躍を期待する。

平成29年度総長顕彰受賞者

【応募件数】 学修への取り組み：７件
正課外活動への取り組み：９件

「学修への取り組み」部門

氏　名	学部学科・学年	講　　評
ふくい　ゆたか 福井　ゆたか	教育学部　人間発達科学科　４年	発展途上国のメンタルヘルス支援に携わりたいという大きな目標を持ち，世界で通用する英語力や研究的思考を身に付ける努力を意欲的かつ着実に続け，He For Sheキャンペーンでは本学の学生代表として発表するなどの活躍もあった。活動領域として海外を志向して実際に現地に赴き，NGOで培った人脈を生かして研究を行ったことは独自の活動として評価でき，他の学生に大いに刺激を与える。大学院進学後も研究を発展させることを期待する。
さだか　しんや 左高　慎也	法学部　法律・政治学科　４年	入学後の早い時期から政治学の研究者になることを目標に掲げ，その学修態度は単に熱心であるだけでなく，自ら目標や課題を設定し，研究テーマに果敢に取り組んでおり，自律的で知的チャレンジ精神に溢れている。また，研究者養成のエキップMIRAIの一期生として他の学生と活発に交流し，合同ゼミなどで積極的なリーダーシップを発揮するなどの存在感を示している。将来，名古屋大学出身の研究者として、活躍が大いに期待される。
せずみ　ゆうた 瀬住　優太	経済学部　経営学科　４年	旺盛な知識欲と社会に対する広範な知的関心に基づき，真摯に勉学に励むとともに，ゼミや海外視察研修では積極的にリーダーとしての役割を担い，実施や運営に大きく貢献した。卒業論文研究では電力自由化の有効性について丁寧にデータ分析を行い，グローバル・スタンダードの潮流に流されることなく，電力の自由化・規制緩和の有効性を検証するその姿勢は，評価に値する。卒業後は，社会人としてさらに活躍することを期待する。
よしだ　きいち 吉田　貴一	理学部　物理学科　４年	タイムマネジメント能力に優れ，日々の学業を疎かにすることなく授業内容を確実に理解し，広範な好奇心に従い，広く学問全般について極めて高いレベルで知識を修得し，優秀な成績を修めた。学修を喜びにして，高いレベルで徹底して追求する態度は，他の学生の模範となる。また，体操部の活動にも熱心に取組み，名阪戦等の大学対抗戦で活躍するとともに，代表者を務め、その人望も厚い。大学院進学後も粘り強い姿勢で研究することを期待する。
ﾌﾞｫﾚﾃｨ　ｽﾘｰｶﾙ VOLETI　Sreekar	工学部　物理工学科　4年	量子力学，統計力学，固体物理学などを特に深く理解し，単位修得に苦労する学生が多いG30の物理系プログラムにおいて，極めて優秀な成績を修めた。難解な理論の文献を意欲的に読み込み，分からないことや読むべき教科書などに関して指導教員に積極的に相談し，高度な内容を理解する学修姿勢は，他の学生の範となる。引き続き，高度な学修に取り組むと共に，希望する世界トップクラスの大学へ進学し，研究を続けることを期待する。
ほそい　あさこ 細井　朝子	農学部　生物環境科学科　４年	卒業要件を大きく超える授業科目を受講し，いずれも優秀な成績を修めている。実験や野外実習においても，目的を正しく捉え，班を主導し主体的に学修に取り組むなど，他の学生の良い刺激となっている。専門科目以外にも英語や経済関連科目を積極的に受講して取得が難しい資格を取るなど，その姿勢は大変力強いものであり，「論理的思考力」「課題解決能力」「実行力」を備えたチャレンジ精神に富む人材である。社会人となって，さらに大きく成長することが期待される。

「正課外活動への取り組み」部門

氏　名　・団体名	代表者	分　野	講　　評
フォーミュラチームFEM	ながた　ひろのり 永　田　裕　宣 （工学部物理工学科４年）	正課外活動 （部活動等）	仮想企業として，1年に1台の車両を設計・製作し，全日本学生フォーミュラ大会に出場している。この大会では，車両の性能，設計意図や車両製作費用・他社への製造委託などの提出書類，その場でのプレゼンテーション能力も審査され，優勝を競っている。2014年には総合優勝し，発足14年目の昨年の大会では， EVクラスでは優勝を果たし，総合で4位と、本学の名誉を高めた。本顕彰に値する成果であり，今後は，欧州の強豪チームと同等レベルになり，目標とする海外大会への出場を果たすことが期待される。
名古屋大学E.S.S.	いまい　こうじ 今　井　幸　司 （工学研究科電子情報システム専攻博士前期課程２年）		多種多様な社会問題の是非を取り扱う即興型英語ディベートに取り組み，部員数が少ないため，他大学と練習するなどして着実に力を培ってきた。今年度韓国で開催された北東アジア大会では，今井・金原のチームがEFL（外国語としての英語話者部門）で準優勝を飾り，英語ディベートの海外大会での準優勝は本学初のことであり，本学の名誉を高めた。今後は，さらに研鑽に励み，海外大会，国内大会に出場し，いっそうの活躍が期待される。

平成28年度総長顕彰受賞者

【応募件数】 学修への取り組み：６件
正課外活動への取り組み：９件

「学修への取り組み」部門

氏　名	学部学科・学年	講　　評
すずき　さえこ 鈴木　草営駒	教育学部　人間発達科学科　４年	高校生のころから教育学に関心を持ち，入学後は広く教育学を学びながら，近年注目を浴びてきている中等教育における部活動問題を取り上げ，積極的かつ意欲的に研究に取り組んできた。また，学修に取り組む傍ら，名古屋大学女子ラクロス部において活躍し，組織づくりにおいて主導的な役割を果たすなど，何事にも熱心に取り組む姿勢は，他の学生の模範となるものである。大学院進学後も大いに活躍を期待する。
かとう　きほ 加藤　希歩	経済学部　経済学科　４年	成績優秀により，学部４年間と大学院１年間の計５年間で大学院博士課程前期課程まで修了できる「学部・修士５年一貫教育プログラム」の履修生に選ばれ，すでに４年次より大学院レベルの講義も受講し始めている。一方で，資格取得のための受験勉強も同時に進め，実践的・実務的な知識の取得にも務めており，高い学修意欲を持っている。大学院進学後も積極的な活躍をすることを期待する。
とや　みちひさ 戸谷　充寿	理学部　化学科　４年	４年生ながら，有機ナノチューブ合成研究における成果は高い評価を得ており，国際学会で発表して意義あるレベルに達している。また，研究活動のみではなく，部活動，教育活動といった様々な取り組みに対して非常に意欲的な姿勢がみられ，周りからの信頼も厚く，他の学生の模範となる人物である。大学院進学後もさらに研究を発展させ，将来は優れた研究者・教育者として活躍することを期待する。
のぐち　よういちろ 野口　陽一朗	医学部　医学科　６年	学修に非常に熱心に取り組み，６年次の実習中に考察した症例について，学会で発表した。また，基礎医学セミナーでは優秀賞を受賞した。同級生のみではなく，他大学の学生や，他学年の学生が参加する勉強会の自主的な開催をはじめとして，積極的かつ意欲的な後輩指導など，自身の学修のみならず，他の学生に対してもよい影響を与えている。卒業後は医師として医療の充実に尽力することを期待する。
さい　びん 崔　敏	工学部　物理工学科　４年	いずれの授業科目に対しても意欲的な態度で臨み，ほとんどがS評価というきわめて優秀な成績を修めた。また，日英中韓の四カ国語を自由に使いこなす優れた語学力をもち，積極的に英語で発言するなど，日本人学生の語学学習意欲に対しても大きな影響を与えている。大学院進学後もさらに研究を発展させ，基礎学力に支えられた研究力，多様な国際活動を積極的に先導する行動力を兼ね備えた研究者・技術者へと成長することを期待する。
あかつか　しゅう 赤塚　秀次	農学部　応用生命科学科　４年	講義への積極的な参加はもちろんのこと，２年次より友人たちと自主的に勉強会を開催するなど、未学習の分野の学習も主体的に進め，優秀な成績を修めたこと，また，専門的な内容を英語で議論する訓練を重ね，語学力の向上に取り組むなど，積極的にたゆまず努力し続けるという姿勢は，シンプルながら他の学生の模範となるものである。大学院進学後も活躍することを期待する。

「正課外活動への取り組み」部門

氏　名　・団体名	代表者	分　野	講　　評
名古屋大学学生法律相談所	いとう　みちたか 伊藤　通崇 （法学部法律政治学科３年）	社会への貢献活動 本学への貢献活動	名古屋大学学生法律相談所は，「法的知識の地域への還元」を活動理念に掲げ，約５０年前に結成された法学部公認サークルであり，弁護士として活躍している，OB・OGの協力を得ながら，主として学外の方を対象とした無料法律相談を行っている。累計相談件数は4000件以上に上り，広く，また気軽に利用できる法律相談として，大いに社会に貢献しており，今後の活躍にも期待が持てる。
混声合唱団名古屋大学 コール・グランツェ	わたなべ　ひろき 渡邊　大貴 （理学部物理学科３年）	正課外活動 （部活動） 本学への貢献活動	来年創団40周年を迎え、本学学生１００名を超える大人数の合唱団へと成長し，平成２８年度の全日本合唱コンクールでは金賞２位，及びカワイ奨励賞などの数々の賞を受賞し，「混声合唱団名古屋大学コール・グランツェ」の名前とともに，名古屋大学の名誉を高めた。近年，新しいジャンルの音楽活動にも積極的に挑戦しており，今後の活躍が大いに期待される。
きのした　さとる 木　下　　悟	―	本学への貢献活動 国際交流	日本人学生と留学生との交流を図るイベントの企画・運営による本学の国際交流の促進と，自分自身の海外経験を他の学生と共有し，留学や国際交流に興味を持つ学生の支援，及び継続的な留学生支援により，本学の国際化に多大な貢献をしたことは，高く評価できる。大学院進学後も，継続して活動を続け，将来は自身の研究で得た知識も活かし，広く社会に貢献することを期待する。

平成２７年度総長顕彰受賞者

【応募件数】 学修への取り組み：５件
正課外活動への取り組み：１０件

「学修への取り組み」部門

氏　名	学部学科・学年	講　　評
くわはら　かざね 桒原　風音	教育学部　人間発達科学科　４年	いずれの授業科目に対しても真面目で意欲的な態度で臨み，優秀な成績を収め，卒業論文はすべて英語で執筆するなど，世界基準で見ても十分に通用する行動力，語学力，研究力を兼ね備えている。英語力の維持・向上のため，国内のスポーツ専門誌の英語コラムの執筆や翻訳を行うなど，その成果を社会に還元もしている。大学院進学後もさらに研究を発展させ積極的な活躍をすることを期待する。
とよしま　さや 豊島　紗耶	経済学部　経営学科　４年	成績優秀により，「グローバル人材育成プログラム海外視察研修旅行」のメンバーに選出され，タイやシンガポールの大学等を訪問し，英語による発表と現地学生との討論で優秀な成績を挙げるなど，授業やゼミナールでの海外研修等の機会を通じ，各国の学生等との交流を深め，国際性の涵養への努力と，真摯に勉学に取り組む姿は卓越しており，本学の学生の模範となるものである。卒業後は社会人としてさらに活躍することを期待する。
とみなが　りょうす 冨永　遼佑	理学部　物理学科　４年	成績が優秀であることに加え，他機関主催のスプリングスクールなど体験研修に参加し，原始銀河団の候補天体の発見により，最優秀プロジェクト賞を受賞するなど，高い評価を得ており，宇宙物理学の研究における成果は，国際会議で発表して意義あるレベルに達し，主著欧文論文に投稿することをめざしている。大学院進学後もさらに研究を発展させ将来は国際的に活躍する科学者になることを期待する。
ごとう　けいすけ 後藤　啓介	工学部　機械・航空工学科　４年	本学初となるアラバマ大学の短期交換留学生に選ばれ，自身の専門分野以外の講義にも参加するなど，学業成績が優秀であることに加え，本学の進めるグローバル化教育にも積極的に取り組み，高い学修意欲と自発的で，かつ，独自のチャレンジ精神を持ち，自身の知識を他の学生と積極的に共有し高めあう姿勢は，他の学生の模範となるものである。大学院進学後もさらに研究を発展させ高度な専門知識を擁する研究者・技術者となることを期待する。
やまもと　ひろと 山本　啓仁	農学部　資源生物科学科　４年	高校生の頃から魚類に関する研究に興味を持ち，その当時訪問した研究室に現在所属するなど，積極的かつ意欲的に勉学に取り組んできた。また，交換留学プログラムに参加し，英語力やコミュニケーション能力の向上に努め，極めて高いレベルに達している。その能力を活かし，海外からの交換留学生のサポートなどにも関わり，周囲に好影響を与えるなど，他の学生の模範となっている。大学院進学後もさらに研究を発展させ国際社会で活躍することを期待する。

「正課外活動への取り組み」部門

氏　名　・団体名	代表者	分　野	講　　評
いしやま　あきの 石山　顕信	―	本学への貢献活動 国際交流	留学奨学金プログラム「トビタテ！留学JAPAN」によりTulane大学，Massachusetts General Hospitalに留学し，自身が留学で学んだ経験を医学部の後輩に伝えるだけでなく，他学部の学生や本学を志望する高校生にも伝えるなど留学促進活動に努めてきた。特に，医学部に国際交流サークルを設立することに尽力し，その結果，留学生との交流が盛んになるなど，本学の国際交流に大いに貢献した。今後は医師として日本の医療の充実に尽力されることを期待する。
就活サポーター	さわい　ゆうき 澤井　佑樹 （情報科学研究科Ｍ２）	本学への貢献活動 社会への貢献活動	平成１４年度に就活サポーターが設立された当時から，就職が決まった学部４年生や博士課程前期課程２年生が，自らの経験を活かして，後輩の就職活動をサポートするなど，活発な活動を行ってきた。近年は，ホームカミングデイの際に，卒業生との交流の場を設けるイベントの開催や他大学の就職支援活動団体との活発な相互交流を実現するなど，本学の学生の進路支援に対する貢献のみならず，社会貢献の点でも高く評価できる。
名古屋大学ねこサークル 「なごねこ」	おおにし　たかと 大西　貴都 （理学部地球惑星科学科２年）	正課外活動 （その他） 本学への貢献活動	東山キャンパス内の野良猫問題を解決するため，平成２４年３月から活動を開始し，その後，本学内に生息する野良猫を「地域猫」として捉え，猫の不妊手術の徹底，環境美化に配慮したえさやりなど，適切な猫の管理・世話を行う活動を進めてきた。このことは，新聞にも取り上げられるなど，本学の環境衛生の向上，猫の殺処分の減少など，人間と動物が共生を図る面からも大いに社会に貢献しており，今後の活動にも期待が持てる。
KagaQ（かがく）	えびはら　てつお 海老原　哲男 （理学研究科Ｍ１）	正課外活動 （その他） 社会への貢献活動	KagaQは，本学の学生が中心となり，「楽しむ」，「学ぶ」，「やってみる」を活動理念に掲げ，小学生から一般社会人までの幅広い世代を対象に「サイエンスをもっと身近に」をコンセプトにした科学コミュニケーション活動を通して，サイエンスの魅力を多くの方に伝えてきたことは，社会への貢献として評価できる。未だ発掘されていない科学と交わる分野を結びつける新しい企画に挑戦するなど，今後の活動にも期待が持てる。